

アフリカ地域別「生活改善アプローチによる農村コミュニティ開発」コース 平成 23 年度ソフト型フォローアップ

国名	エチオピア、ケニア、マダガスカル、シエラレオネ
発注者	国際協力機構（JICA） 筑波国際センター
事業分野	研修業務
実施期間	2011 年 11 月から約 5 ヶ月



©The World Factbook

戦後日本の農村で実践・発展した生活改善普及事業は、農村の生活向上に大きな成果を上げたこととされ、JICA は「生活改善アプローチ」として整理し、技術協力で応用可能なコンテンツを作成しました。その技術協力コンテンツを活用し、本邦研修「生活改善アプローチによる農村コミュニティ開発」を実施し、さらに事後プログラムによる研修成果の発現に努めています。しかし、研修員同士のネットワーク、または研修員と JICA 等関係機関との継続的な情報共有システム構築が発展途上の状態であり、事後プログラム終了後、研修員の活動報告は非常に限定的であるという問題を抱えています。研修の成果を確実に日本側で把握し、事後プログラム終了後の活動の継続性を維持するためにも、情報収集およびネットワークの構築は重要な課題となっていました。

事業の内容

同コース本邦研修 6 年間の成果及び研修員ネットワーク体制の構築に向けた必要情報を収集するため、アンケート調査の実施や帰国研修員を集めたワークショップの開催、研修員が計画したアクションプランの実施状況の把握と必要に応じた指導のための現地踏査を行いました。

これら収集・分析した情報に基づいて、本邦研修の内容やアクションプラン作成指導の在り方等を振り返り、今後の改善点を整理し、関係者と共有する報告会等を開催しました。また、事後プログラムを含めたフォローアップ活動に関する提言や、各国の農業・保健医療政策面における生活改善アプローチの関与が取りまとめられ、他国への適用可能なモデルとして整理することも続けています。

このような活動を通じ、研修員のアクションプランや関連するプロジェクトの成果が発展・継続するように支援を行っています。



農村コミュニティメンバーと調査団



調査団員による聞き取り調査



取り組んでいる生活改善活動の報告